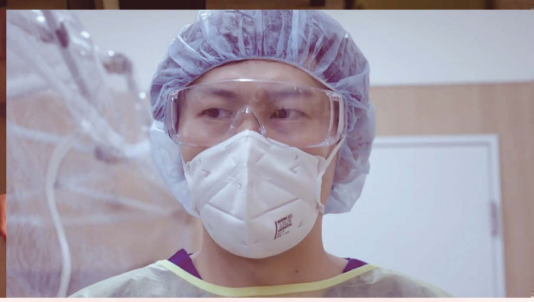
丸善出版制作映像教材

終わりのない生命（いのち）の物語3

5つのケースで考える生命倫理

完成記念上映会 &トークイベント



日　　時：2023 **11/20** MON 18:00-20:00（予定）開場17:30

参 加 費：無料 ※要申込

登 壇 者：鶴若 麻理　聖路加国際大学 生命倫理学・看護論理学 教授／本作監修

香川 知晶　日本生命倫理学会 第 11 期代表理事・会長／本作 Case 4 監修協力

畔柳 恵輔　映像ディレクター／本作演出

会　　場：ユーロライブ http://eurolive.jp/

住　　所：渋谷区円山町 1-5 KINOHAUS 2F

※当イベント内容やチケットに関してユーロライブへのお問い合わせはご遠慮下さい。お問い合わせは、右記丸善出版 Web サイトよりお問い合わせください。

イベントの詳細やお申込みはこちら

https://www.maruzen-publishing.co.jp/info/n20756.html

主催：丸善出版株式会社

このドラマの結末はあなた自身が描いてください

本作は、生命と倫理をめぐる様々な課題を、5つの短編ドラマで描いた映像教材の3シリーズ目となります。医療、看護、介護、社会福祉、心理などヒューマンケアに携わる方々だけでなく、当日ご来場いただく皆さんも直面するかもしれないテーマを描いています。各ドラマは結末までを描いていません。それは視聴された皆さんにその後の展望を想像・創造いただくための教材だからです。

上映後には本作の制作に深く関わった方々のトークイベントを開催します。5作のテーマ選考、制作の背景、撮影の裏話等に加え、我々の身近な「生命倫理」について語っていただきます。

終わりのない生命の物語3
5つのケースで考える生命倫理

作品の詳細はこちらから

https://www.maruzen-publishing.co.jp/search/s10127.html

『終わりのない生命の物語3』より以下3本を上映したのち、トークイベントを行います。

Case 2 「本人」の意思 【アドバンスケアプランニング】 15分

不摂生がたたり心不全で入院した田辺は、独身一人暮らしで親族とも疎遠。深刻な病状や、症状の更なる悪化に備えた治療方針の説明に、当の本人は全く興味を示さない。プライマリーナースの青木は、もしもの時に備えどのような医療やケアを望むのか、田辺と一緒にACPを考えたい。本人による自発的なACPは果たして可能なのか。

Case 3 救える命 【トリアージ】 14分

COVID-19のパンデミックから数年。新たな感染症の猛威により再び逼迫する医療現場。深夜、救急車で救急外来に運び込まれた吉田(76)、家族に連れられてきた小川(41)はその後、急速に容体が悪化。ICUで翌日に抜管予定の村上(70)を含め、誰に一台の人工呼吸器を優先し装着すべきか。医療資源が不足する中、判断に迫られる医師たち。

Case 4 未来からの選択肢 【ゲノム編集】 16分

難聴をきっかけに来院した御子柴は検査の結果、遺伝性疾患の難病であることが発覚した。担当医である天田はゲノム編集を使った治療を目指す研究プロジェクトに参加しているが、実用化には時期尚早な現実に思い悩む。息子への遺伝を恐れる御子柴はゲノム編集による治療の可能性を知り天田に詰め寄る。

トークイベント登壇者

鶴若 麻理
聖路加国際大学 教授

聖路加国際大学教授(生命倫理学・看護倫理学)、同公衆衛生大学院兼任教授。生命倫理の分野から本人の意向を尊重した保健、医療の選択や決定を実現するための支援や仕組みについて、臨床の人々と協働しながら研究・教育に携わっている。編著書に『看護師の倫理調整力 専門看護師の実践に学ぶ』(日本看護協会出版会)、ヨミドクター『看護師のノートから～倫理の扉を開く』(コラム)連載中、『ナラティヴでみる看護倫理』(南江堂)、『認知症ケアと日常倫理』(日本看護協会出版会, 11月末刊行)がある。本作監修。

香川 知晶
日本生命倫理学会 第11期代表理事・会長

現在、山梨大学名誉教授、日本学術会議連携会員(第23期～)、日本生命倫理学会代表理事(第11期)。専門はフランス哲学、生命倫理学。生命倫理学関係の著書に『生命倫理の成立』『死ぬ権利』(ともに勁草書房)、『命は誰のものか』(ディスカヴァー携書)、共編著に『生命倫理の源流』(岩波書店)などがある。本作Case 4 監修協力。

畔柳 恵輔
映像ディレクター

国内外のCM、WEBムービー、ドキュメンタリー、MVを企画・演出しながら、近年はドラマ演出や演劇の脚本・演出にも活動の幅を広げている。人生を描くドラマからシュールな瞬間を切り取るコメディまで、ジャンル・形式を問わない説得力のある演出に定評があり、国内外の広告賞や放送賞を受賞。本作演出。